

グラフde センサス

～グラフで見て学ぶ農林業センサス～

～ 2020 年農林業センサスミニ分析～ 【第6回 林業経営体】

2022（令和4）年
9月発行
東海農政局統計部

林業経営体数の推移 ～林業経営体数は10年前と比べて約8割の減少～

東海3県における林業経営体数は2,609経営体となり、2020年は2010年に比べて79%減少しています。

また、内訳をみると、個人経営体が81%、団体経営体が60%それぞれ減少しています。

保有山林面積規模別に経営体の割合をみると、2020年は2010年に比べ10ha未満は約13ポイント低下したものの、10～100haでは約6ポイント、100ha以上では6ポイント上昇しています。

また、10ha未満の小規模な経営体の割合は減少し、10ha以上の大規模な経営体の割合は増加しています。

ランキング

林業経営体数が多い市町村
(2020年)

順位	市町村	経営体数
1位	郡上市	378
2位	豊田市	233
3位	高山市	215
4位	中津川市	211
5位	関市	127
6位	東白川村	118
7位	伊賀市	107
8位	松阪市	104
9位	下呂市	90
10位	岡崎市	85



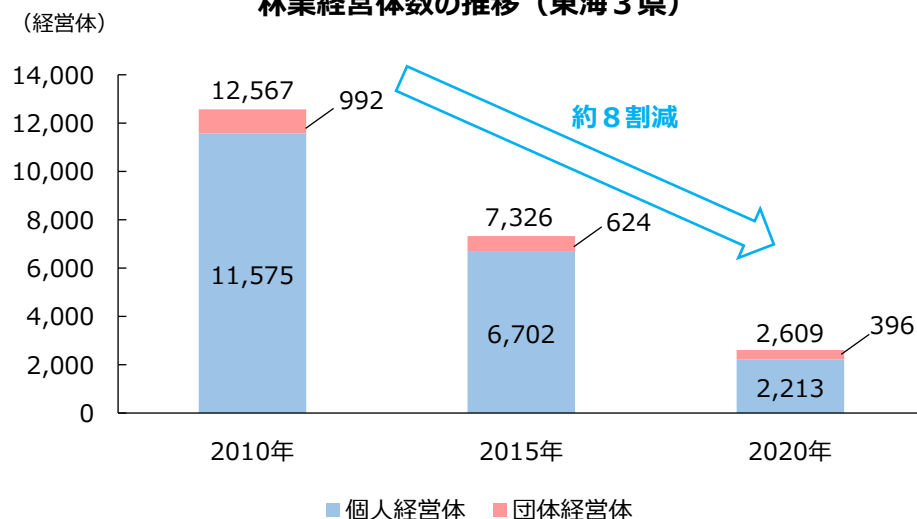
林業経営体とは

保有山林面積が3ha以上の規模の林業を行う者、委託を受けて行う育林、素材生産又は立木を購入して行う素材生産の事業を行う者をいいます。

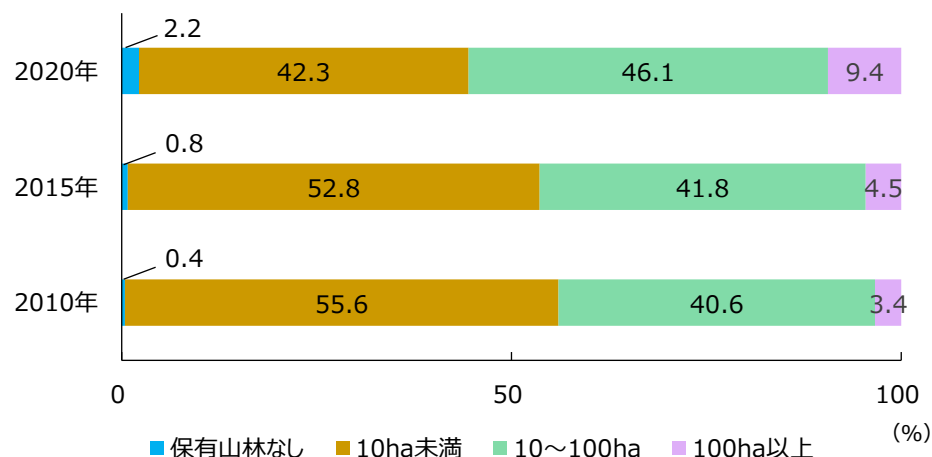
保有山林とは

保有山林 = 所有山林 - 貸付山林 + 借入山林

林業経営体数の推移（東海3県）



保有山林面積規模別経営体数の推移（東海3県）



注：ラウンドにより計と内訳が一致しない場合がある。



働カ ～木材利用を目的とする作業の割合が増加～

東海3県における林業経営体のうち保有山林で林業作業を行った経営体は、岐阜県1,353経営体、愛知県457経営体、三重県485経営体となり、2020年は2010年に比べそれぞれ80%、75%、74%減少しています。

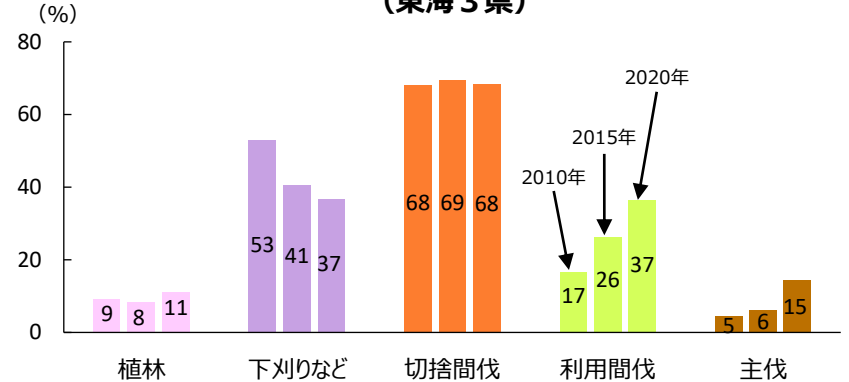
これら経営体の作業別経営体数割合は、切捨間伐が最も多く、次いで下刈りなどとなっています。

また、木材利用を目的とする作業の割合は、2020年は2010年に比べ利用間伐は20ポイント、主伐は10ポイントそれぞれ上昇しています。

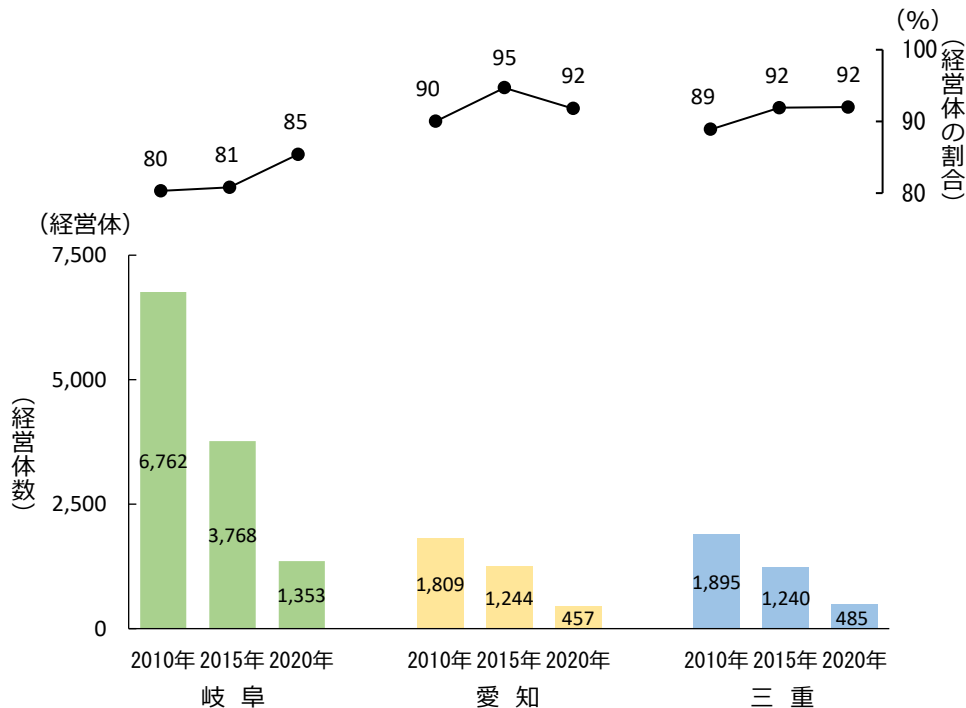
雇用者数は、岐阜県955人、愛知県472人、三重県531人となり、2010年に比べそれぞれ75%、64%、64%減少しています。

注：保有山林における林業作業は過去5年間に作業を行った否かを調査したものである。

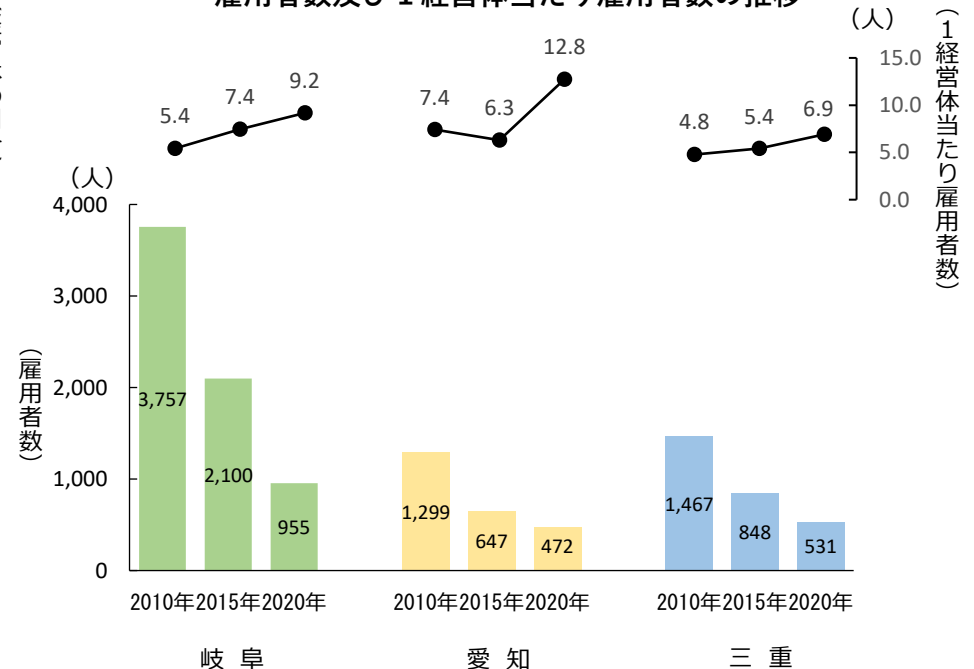
保有山林で林業作業を行った作業別経営体数の割合の推移 (東海3県)



保有山林で林業作業を行った経営体数及び経営体の割合の推移



雇用者数及び1経営体当たり雇用者数の推移



注：1経営体当たり雇用者数とは、全雇用者数を、雇い入れた実経営体数で除算したものである。

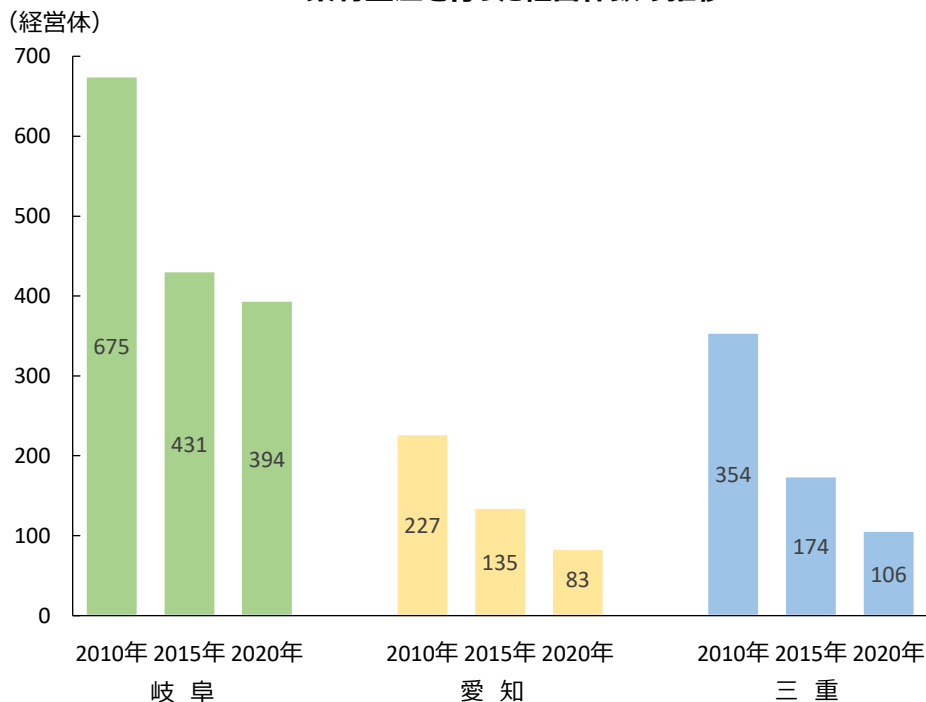
素材生産の状況 ～東海3県とも1経営体当たりの素材生産量は増加傾向～

東海3県における林業経営体のうち素材生産を行った経営体数は、岐阜県394経営体、愛知県83経営体、三重県106経営体となり、2020年は2010年に比べそれぞれ42%、63%、70%減少しています。

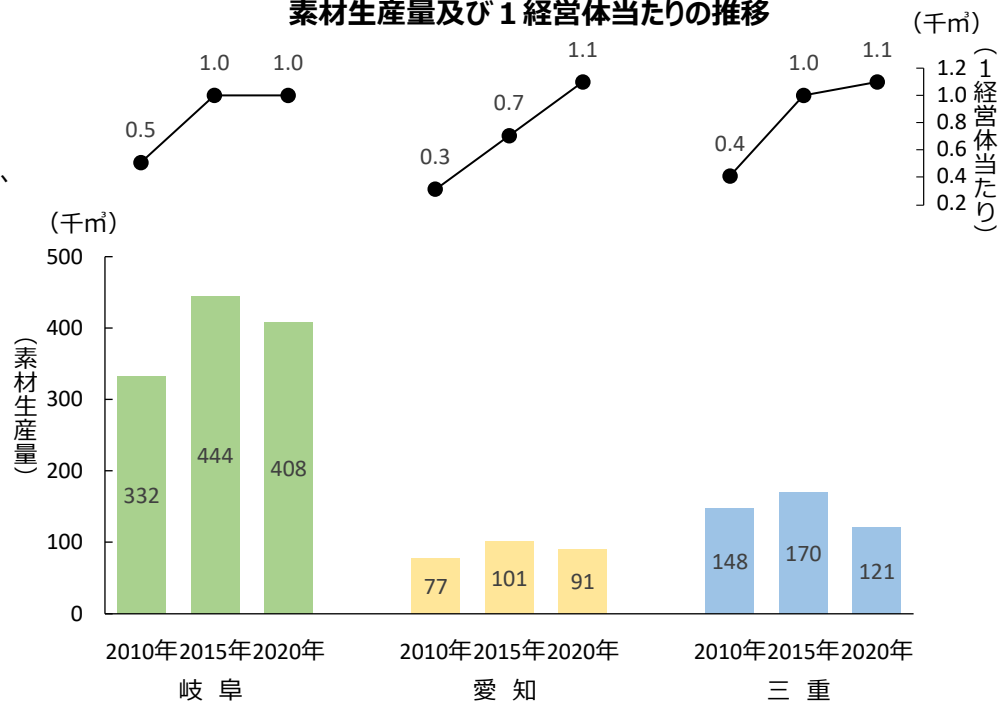
しかし、素材生産量の推移は、岐阜県は23%増加し408千 m^3 、愛知県は18%増加し91千 m^3 、三重県は18%減少し121千 m^3 となっており、また、1経営体当たりの素材生産量は、岐阜県は1千 m^3 、愛知県及び三重県は1.1千 m^3 にそれぞれ増加しており、素材生産量は増加傾向となっています。

参考として、東海3県の素材生産は「すぎ」と「ひのき」が主となっています。

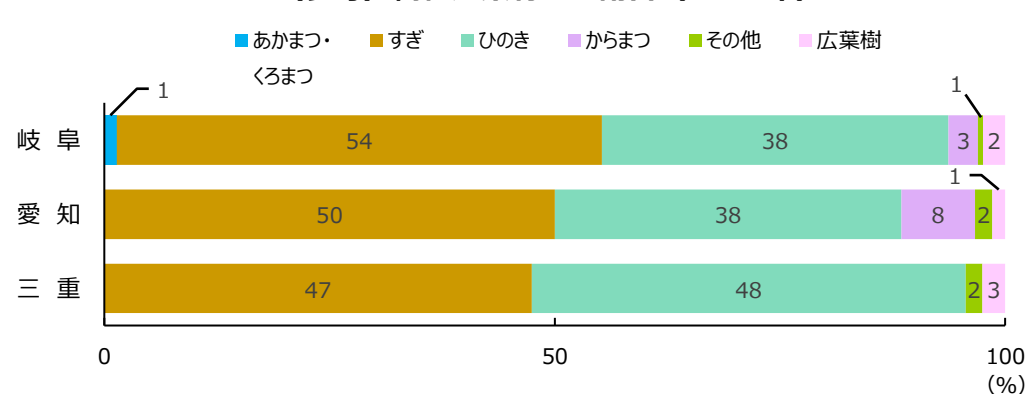
素材生産を行った経営体数の推移



素材生産量及び1経営体当たりの推移



(参考) 樹種別素材生産割合 (2020年)



注：ラウンドにより計と内訳が一致しない場合がある。

出典：「木材需給報告書」

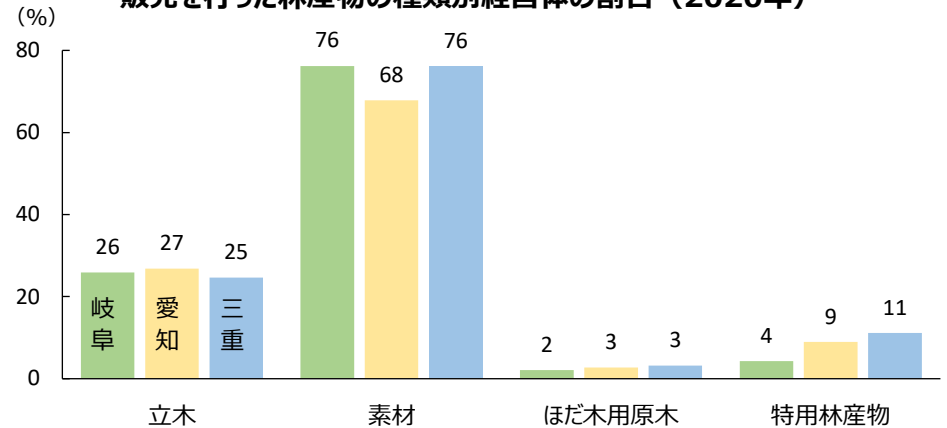
林産物の販売状況 ～販売を行った経営体の割合は東海3県ともそれぞれ増加～

東海3県における林業経営体のうち林産物の販売を行った経営体数は、岐阜県425経営体、愛知県112経営体、三重県126経営体となり、2020年は2010年に比べそれぞれ48%、57%、59%減少しています。しかし、販売を行った経営体の割合は、それぞれ27%、22%、24%に増加しています。

販売を行った林産物の種類別に経営体数の割合は、3県とも素材を販売した経営体の割合が高く、岐阜県及び三重県では76%となっています。

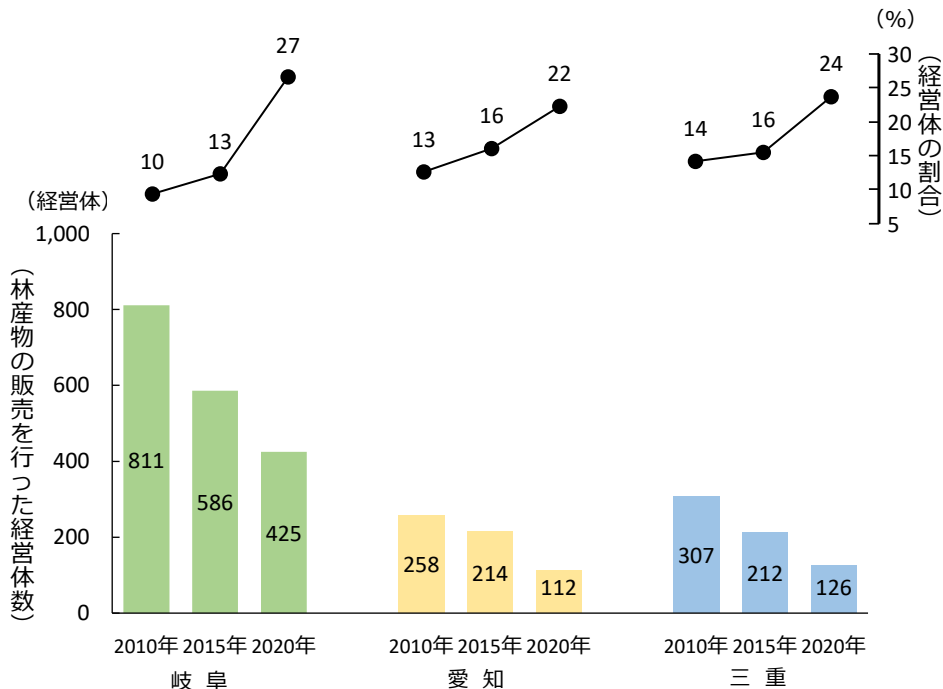
東海3県における林産物の販売金額規模別経営体数の割合は、2020年は2010年に比べ100万円未満は減少したものの、100万円以上の各階層は増加しています。

販売を行った林産物の種類別経営体の割合（2020年）

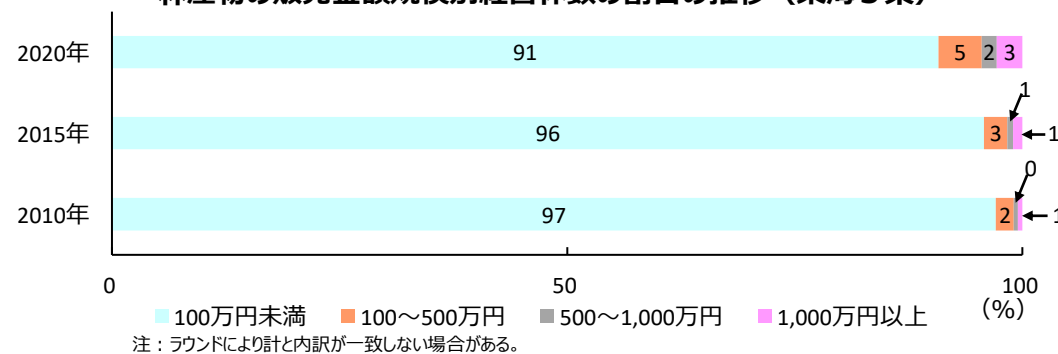


注：特用林産物とは、薪、炭のほか、山林から採取した山菜、きのこ、たけのこなどである。

林産物の販売を行った経営体数及び経営体の割合の推移



林産物の販売金額規模別経営体数の割合の推移（東海3県）



注：ラウンドにより計と内訳が一致しない場合がある。

お問い合わせ先

東海農政局 統計部 経営・構造統計課
電話：(052) 763-4731
[詳しい公表内容はこちらからご覧いただけます]



農林水産省ホームページ



東海農政局Webサイト